

『信仰ゆえの非常識？・2』

'20/08/16

聖書箇所:マルコの福音書 2章 1-12節(新約 p.66-)

ここ最近で、私たちが学んできたことの1つに…、イエス・キリストというお方は、それが、例え、どんなに重い病であっても、一瞬の内に癒すことがお出来る、ということでした…。しかし、聖書のみことばは、イエス様が、大勢の者たちの病気を直すために、この地上に来られたということを教えてくれているのでは、決してありません。

皆さん、覚えてくださっていますか？…私たちが2週間前に学んだ、「イエス様の優先順位」で、大勢の者たちが癒しを求めて、イエス様のところへとやって来た時、イエス様は、何とおっしゃいました？⇒『さあ、近くの別の村里へ行こう。』って…。一体どうして、でした？⇒そのすぐ後で、イエス様は、こうおっしゃいました。『…そこにも福音を知らせよう。わたしは、“そのために出て来た”のだから。』(マルコ 1:38)って…。

皆さん、聞いてくださいましたか？…イエス様は、福音のメッセージを告げ知らせるために…、つまりは、私たちの罪が赦されるために、この地上へ来てくださったのです！病を癒すというのは、イエス様からすると、単なる付け足し…、あるいは、副産物であって…、決して、イエス様が1番に願っておられたことでは無かったです。

命題: 真の信仰者たちに見られる特徴には、どのようなものがあるでしょう？

前回、マルコ 2章前半から、私たちが学んだことは、そういった神様が与えてくださる恵みの中で、クリスチャンがどのような行動を取り…、そして、どういったような祝福を受けることができるのか？ということでした。今日も、先週に学んだことの復習を交えて…、本物の信仰者たちに見られる特徴について、皆さんと一緒に学んでいきたいと思います。どうぞ、マルコ 2:1以降をお開きください。

I・神を信頼するがあまり、驚くようなことをしてしまう！(1-5節)

まず、先週に私たちが学んだことは、本物の信仰者たちという者たちは、神を信頼するがあまり、時に、“驚く”ようなことをしてしまう…、あるいは、“驚く”ようなことができてしまう！ということでありました。まず、今回のみことばの内、マルコ 2:1-5をご覧ください。そこには、このように記されています。

- 1 数日たって、イエスがカペナウムにまた来られると、家におられることが知れ渡った。
- 2 それで多くの人が集まったため、戸口のところまですきまもないほどになった。この人たちに、イエスはみことばを話しておられた。
- 3 そのとき、ひとりの中風の人が四人の人にかつがれて、みもとに連れて来られた。
- 4 群衆のためにイエスに近づくことができなかったので、その人々はイエスのおられるあたりの屋根をはがし、穴をあけて、中風の人を寝かせたままその床をつり降ろした。
- 5 イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、「子よ。あなたの罪は赦されました」と言われた。

今のみことばをご覧くださいますと、今回もまた、大変な病をかかえた人物が登場しています。ここでは、『中風』と書かれてありますが…、どうも、この人物は、かなり重い病で、体の麻痺が全身に及んでいたようで、これは現代の医学であっても、リハビリ以外の…、ほとんど治療の可能性が見込めないような状況であったようです。しかし、感謝なことに、この人物には、親しい“信仰の友”がおりました。その友人たちは、何とかして、この中風をイエス様に癒してもらおうとしますが…、そこには、たくさんの人たちで溢れていて、どうにも病人を運び込む方法が見つかりません。そこで、彼らの考えついたのが、屋上に上って…、何と、屋根をはがして…、その屋根にできた穴から、イエス様の前に病人をつり下ろすという、何とも非常

識かつ、危険な行動でありました。

でも、特に、皆さんに注目していただきたいのは、その時、イエス様が、その病を癒してくださったのではなく…、『あなたの罪は赦されました』と宣言してくださったことです。当然、それには根拠がありました。…イエス様は、大勢の人たちから注目されようとして…、あるいは、サービス精神か何かから…、『あなたの罪は赦されました！』などとおっしゃられたのではありません。そうではなくて…、実は、これこそが、イエス様が1番に伝えたくったメッセージであり、イエス様が、この地上へ来てくださった1番の目的であったのです。

どうぞ、先程読んだマルコ 2:5 に注目してください。そこには、『イエスは“彼らの信仰を見て”…』と書かれています。この信仰こそが、私たちの犯してきた罪が赦されるための、たった1つの方法なのです！この信仰を持っていたがゆえに、彼らの罪が赦されることができたのです。

でも、どうか、皆さん。聖書にある多くのみことばが、「私たちの信仰こそが、私たちの罪が赦されるための方法である…」と教えているからと言って、その信仰と言うか、「私はイエス様を信じます！」という告白だけを“鵜呑み”にしないでください。

例えばね、皆さん。…聖書の中には、イエス・キリストのことが、多くの場合、ただ、「イエス」とだけ表記されています(例:イエスは、イエスが、イエスの…)。でも、決して、少なくはない個所で、「キリスト」とか、あるいは、「イエス・キリスト」という風になら書かれていますか？…でも、じゃあ、ただ単に、イエスとだけ書かれている場合と、あるいは、キリストと書かれている場合とは、違う人物を指しているのでしょうか？⇒そんなことないでしょ！…ただ単に、イエスと書かれている場合も、キリストと表記されている場合も、もちろん、イエス・キリストと書かれている場合も、それらは皆、同じ人物を指しているのです。

その理由は、恐らく…、ある時は、イエス様の人間性を強調したいとか、あるいは、イエス様の神性(=イエス様が神である)を強調したいとか、あるいは、イエス様こそが来たるべきメシヤであることを強調したかったとか、いろいろあるでしょうけれども…、でも、間違いの無いことは、それらは皆、同じイエス・キリストのことを表わしているのです。そうでしょ？

それと同じように、聖書が教えてくれている『信仰』も…、また、「悔い改め」も…、もしも、正しく理解することができたなら…、それらに多少の強調点の違いというものがあったとしても、それらは両方とも、同じものを指している、ということが分かります。私たちの罪が赦されるための方法…、それこそが信仰であり…、正しい悔い改めなのです。それらは、まるで、同じコインの表と裏のような関係にあって、基本的には、神様に対する同じような態度や変化であり…、同時に起こる“神様の御業”なのです。

それこそが、「神を信頼する。神を第1とする」ということでもあります。本当に、聖書の言葉を正しく理解し…、真の神様のことを“正しく受け入れた”者たちは皆、この神様こそが、すべてのものを造られた創造主であられることを認め…、その故に、この神様に喜ばれることを願い…、この御方を1番に優先していきたく願います。実に、それこそが、本物の信仰者が持っているはずの正しい態度なのです。

II・罪の赦しと、問題の解決をいただく！(5-12節)

次に私たちが学んでいきたい内容は、神は、そのような…、本物の信仰者に対して、罪の“赦し”と、その者が抱えている問題の“解決”とを与えてくださる！ということでもあります。どうぞ、今日のみことばの内、5-12節をご覧ください。そこには、このように記されています。

5 イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、「子よ。あなたの罪は赦されました」と言われた。

- 6 ところが、その場に律法学者が数人すわっていて、心の中で理屈を言った。
- 7 「この人は、なぜ、あんなことを言うのか。神をけがしているのだ。神おひとりのほか、だれが罪を赦すことができよう。」
- 8 彼らが心の中でこのように理屈を言っているのを、イエスはすぐにご自分の霊で見抜いて、こう言われた。「なぜ、あなたがたは心の中でそんな理屈を言っているのか。」
- 9 中風の人に、『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて、寝床をたたんで歩け』と言うのと、どちらがやさしいか。
- 10 人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたに知らせるために。」こう言ってから、中風の人に、
- 11 「あなたに言う。起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい」と言われた。
- 12 すると彼は起き上がり、すぐに床を取り上げて、みなが見ている前を出て行った。それでみなの方がすっかり驚いて、「こういうことは、かつて見たことがない」と言って神をあがめた。

●イエス様が、中風の者に発せられた言葉は？⇒『あなたの罪は赦されました』

もう1度、5 節からお読みいただきましたが…、皆さん、考えてみてください。一体どうして、イエス様は、「よーし！あなたを癒してあげよう。起きて歩きなさい！」という言葉ではなく…、「あなたの罪は許された…」なんていうことを、最初に言われたのでしょうか…だって、中風を患っていた者も…、また、その友人も、病が癒されることを一番に願って、ここまでやって来たのではなかったでしょうか？

実は、このことを理解するためには、この当時の考え方をしておく必要があります…。どうぞ、皆さん。ヨハネ 9:1-3 をご覧ください。『1 またイエスは道の途中で、生まれつきの盲人を見られた。2 弟子たちは彼についてイエスに質問して言った。「先生、彼が盲目に生まれついたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。その両親ですか。」3 イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのではなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現れるためです。』

⇒実は、この当時、「病というものは、何か、神様からの裁き…、罰が原因で起こる…」というような考えがありました。ですから、ここにあるように、『生まれつきの盲人』を、イエス様の弟子たちが見た時、彼らを持った疑問は、「一体、誰が罪を犯したので…、この人は、生まれながらに盲目なのですか？」というものでした。『生まれつき…』ということから、彼らが迷ったのは、この人物が生まれてくる前に、何かの罪を犯したのか？あるいは、この者の両親が何かの罪を犯したのか？ということでした。しかし、それに対するイエス様の答えは、「誰が罪を犯したからでもない。神のわざが、この人に現れるためである。」というものでした。…天の神様は、病や生まれつきの障害さえ、神様の栄光のために用いられるのです！

しかし、このように、この当時は、「病というものは、何かの罪に対する、神からの報い(=罰)である…」というように考えられる傾向にありました。…と言いますのも、皆さん。今日のみことばに出てくる、この『中風をわずらっている人』は、ある時まで、元気であったわけでしょう！？ひょっとしたら、この1年前…、あるいは、この数か月前まで、彼は元気であったのかも知れないのです。

しかも、その中風の原因が、「脳血管障害から来た後遺症のこと…」と言われても、2000 年も前の、この当時の人たちは全くそういったことを知り得ることができなかったわけですから。彼らが分かっていることと言えば、つい昨日まで元気だった人が、ある時、突然に倒れてしまって…、それ以降、その人の体の自由が利かなくなってしまう、ということだけであったのです。この当時の人たちが、その原因を、神からの裁きである…という風に考えたのも無理が無いかも知れません…。

皆さん、分かっていますか？だから、イエス様は、中風をわずらっていた者に対して、まず最初に、「あなたの罪は、赦されましたよ！」ということを宣言してくださったのです。…と言うのは、この人物が、「一体どうして、自分はこんな病になってしまったのか？自分の、一体何が、神様を怒らせてしまったのか？」というようなことを、きっと思い悩んでいたからです。恐らく、彼には、それに思い当たる節が幾つもあったのでしょ。…と言うのは、聖書が教える聖い神様のことを知って…、その上でなお、自分のことを完全に正しい人間である！自分は、神から何一つ裁きを受けるような存在ではない！と言い切れるような人間など、どこにも居ないからです！だから、イエス様は、この病に苦しんでいた者に対して、まず最初に、『子よ。あなたの罪は赦されました…』ということ、愛をもって宣言してくださったのです。そうすることによって、この人物が抱えていた良心の責めと言うか…、「自分が、何か大きな罪を犯してしまったんじゃないか？」という責めを無くしてくださったのです。

●律法学者たちの指摘とは？⇒罪を赦せるのは、神 だけだ！

でも、それに対して、異議を唱える者がおりました。それが、律法学者であり…、ルカ5章を見てみると、そこにパリサイ人たちが居たことがわかります。皆さんもご存じのように、律法学者やパリサイ人たちは、旧約聖書のみことばに通じており…、そのため、彼らは、そのみことばを民衆たちに教える者たちであったのです。

その律法学者たちの指摘は、こうでした…。7 節、『この人は、なぜ、あんなことを言うのか。神をけがしているのだ。神おひとりのほか、だれが罪を赦すことができよう。』って…。彼らの指摘は、的を射たものでした。本来、罪とは、私たちのことを神の栄光を現すために、罪の無い、清い者として造ってくださった神様のみことばに反する行為や考えをいうわけで…、そういう意味で、すべての罪は、神に対するものなのです。それ故に、罪を赦すことができるお方は、真の神様以外にはおられません。もちろん、律法学者やパリサイ人たちは、イエス様のことを真の神様であるとは認めていなかったで、『あなたの罪は赦されました…』と言うイエス様が、神のことを汚している…、神を冒瀆していると考えたのは当然です…。

しかし、非常に残念なことは、この律法学者たちの「態度」です。今、見ましたように、彼らの理屈・非難は、あながち間違っただけのものではありませんでした。彼らの言うように、罪を赦すことができるのは、真の神様だけです！つまり、彼らの理解は、良いところまで行っていたのです…。あと、彼らに必要であったのは、「じゃあ、罪を赦すということを宣言されている、このイエス様は本当に神なのか？」ということ、彼らは、真剣に考えるべきであったのです。

しかし、この律法学者たちは、神が遣わされた約束の救い主である、イエス・キリストのすぐ近くにいる…、イエス様のメッセージを聞いていたにも関わらず、罪の赦しをいただくことができませんでした。それは、彼らの「動機」が間違っていたからです。律法学者たちは、心からへりくだって…、真理を見極めようとして、イエス様のメッセージに耳を傾けていたわけではありませんでした。彼らは、イエス様のことを非難するための口実を見つけるために、イエス様のことを観察していたのです。そんな律法学者たちが、救いをいただくことができなかった、というのは、当然と言えば当然です。律法学者たちの間違っただけの態度や動機といったものは、この後、何度も、みことばの中で紹介されていきます。

また、もう1つ、理由があります。どうぞ、ルカ 18:9-14 をご覧ください。『9 自分を義人だと自任し、他の人々を見下している者たちに対しては、イエスはこのようなたとえを話された。10 「ふたりの人が、祈るために宮に上った。ひとりパリサイ人で、もうひとり取税人であった。11 パリサイ人は、立って、心の中でこんな祈りをした。『神よ。私はほかの人々のようにゆるする者、不正な者、姦淫する者ではなく、ことにこの取税人のようではないことを、感謝します。12 私は週に二度断食し、自分の受けるものはみ

な、その十分の一をささげております。』13 ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようとせず、自分の胸をたたいて言った。『神さま。こんな罪人の私をあわれんでください。』14 あなたがたに言うが、この人が、義と認められて家に帰りました。パリサイ人ではありません。なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。』

このように、当時のパリサイ人たちは、自分たちが、その行ないの故に、もう既に救われている！と思いつ込んでおりました。だから、彼らに、救い…。つまり、罪の赦しは必要なかったのです！彼らからすれば…。そういったこともまた、彼らが正しい理解に辿りつかなかった大きな理由としてあるのではないのでしょうか？

どうぞ、今日のみことばに戻ってください…。このエピソードに登場してくる、この律法学者たちの指摘は、一見、正しいかのように思われます。しかし、その内に秘めていた動機は？と言いますと…。決して、正しいものではありませんでした。でも、真の神様は、そこをご覧になれるのです！真の神様は、すべてのことを御存じだからです。伝道者の書 12:14 に、『神は、善であれ悪であれ、すべての隠れたことについて、すべてのわざをさばかれるからだ。』と教えられてある通りです。

一方、この中風を患っていた者の友人たちは？と言いますと…。確かに、彼らの取った行動は、他人の家の屋根を壊すというような、非常識かつ、危険で…。はなはだ迷惑なものでありましたが、でも、その内にあった1番の動機は、信仰であり…。友人のことを想う「愛」でありました。だから、イエス様は、彼らのことを非難されなかったばかりか…。罪から来る責めというものを、1番に解決して下さったのです。

それと同じようなことが、マタイ 26 章に記されています。どうぞ、今度は、マタイ 26:6-13 をお聞きください。『6 さて、イエスがベタニヤで、ツアラアトに冒された人シモンの家におられると、7 ひとりの女がたいへん高価な香油の入った石膏のつぼを持ってみもとに来て、食卓に着いておられたイエスの頭に香油を注いだ。8 弟子たちはこれを見て、憤慨して言った。「何のために、こんなむだなことをするのか。9 この香油なら、高く売れて、貧しい人たちに施しができたのに。」10 するとイエスはこれを知って、彼らに言われた。「なぜ、この女を困らせるのです。わたしに対してりっぱなことをしてくれたのです。11 貧しい人たちは、いつもあなたがたといっしょにいます。しかし、わたしは、いつもあなたがたといっしょにいるわけではありません。12 この女が、この香油をわたしのからだに注いだのは、わたしの埋葬の用意をしてくれたのです。13 まことに、あなたがたに告げます。世界中のどこでも、この福音が宣べ伝えられる所なら、この人のした事も語られて、この人の記念となるでしょう。』

ここであったことは、エルサレム近くの『ベタニヤ』という町で、起こったことでもあります。そこで、イエス様の一行が食事をしておられると、そこに、ある女性がやって来ます。並行記事のヨハネ 12 章を見ますと、これが、「ベタニヤのマリヤ」という女性であったことが分かります。彼女は、非常に高価な香油を、イエス様の頭に注ぎかけます。これまた、並行箇所マルコ 14:5 を見ますと、その香油は、300 デナリ程の価値（＝年収1年分）があったことが分かります。だから、このマリヤのした行為を見て、弟子たちは憤慨したわけですが、「どうせなら、これを売って、貧しい者たちに施したら良かったのに！」って…。確かに、そのような非難も分らないではありません。しかし、ここでイエス様が喜んでおられるのは、『埋葬の用意をしてくれた…』と書かれてありますように…。マリヤは、イエス様が、(この1週間後に、)十字架にかかられることを信じ…。そのために埋葬の準備をしてくれたからなのです。

それとは逆に、弟子たちの方は、イエス様の受けられる受難について…。まあ言えば、十字架の預言について、3度も聞いておきながら…。それをマリヤのように、正しくは受け止めることができませんでした。これもまた、マリヤの行動は、一見、非常識なように見えるかも知れません。しかし、イエス様は、マリヤのしたことを喜ばれました。と言いますのは、貧しい者たちのために施すということは、いつでも、することができますが…。イエス様のために埋葬の準備をして…。イエス様の十字架と一緒に悲しんで…。そのことを

感謝するような機会は、この時だけであったからです。それを、イエス様は評価して下さったのです。

どうぞ、もう1度、今日のみことばに戻っていただきまして…。この時に、律法学者が、心の中でつぶやいたことも、もちろん、間違っただけではありません。しかし、この律法学者の心の内にあったのは、自己保身であり…。他人を卑下するような思いでありました…。しかし、中風をわずらっていた者の友人たちは、自分たちは非難されようと、この友人に癒されて欲しい！イエス様なら、この友人を救ってくださるに違いない！というような信頼と愛を持っておりました。イエス様が、彼らのことを非難されなかったのも、当然ではないのでしょうか？

●イエス様が証しのためになされた行為とは？⇒中風を癒すこと！

そこに居た律法学者やパリサイ人だけでなく…。その場所に居合わせた民衆たちもまた、罪を赦すという、このイエス様は、一体、何者なのか？というような疑問を持ったはずですが。イエス様に関する正しい理解を持つことは、すべての者たちの救いに必要なことであります。

そこで、イエス様は、『あなたの罪は癒されました…』とおっしゃられた、その後で、こう話されました。8b-10a 節で、『なぜ、あなたがたは心の中でそんな理屈を言っているのか。9 中風の人に、『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて、寝床をたんで歩け』と言うのと、どちらがやさしいか。10 人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたに知らせるために。』⇒イエス様は、そう言われて、彼の中風の病を癒されました。

ここで言われていることは、こうです。私たち人間は、「この人の罪は赦されました…」と言われても、それで、本当に、その人の罪が赦されたどうか、はっきりと知り得る術がありません。でも、「起きて、歩きなさい！」と言った場合は、その通りになるかどうかは、誰の目にも明らかに分かっています。ですから、私たち人間からすると、癒しの方が難しいと考えてしまいがちなのですが…。でも、本当は、肉体の癒しよりも、罪の赦しの方がはるかに難しいのです！だって、それは神にしかできないこと…。それができるのでは、神御一人であるからです。

そういうわけで、イエス様は、彼らが難しい！と考えている癒しの奇蹟を難く行なうことによって…。ご自分こそが、罪を赦すことのできる、真の神である！というメッセージを、そこに居る人々に示されたわけなのです。…だから、当時、そこにいた者たちの多くは、イエス様の奇蹟を見て、神をあがめたのです。

< 励ましの言葉 >

実は、私は、以前、自宅近くの公園周辺で、エホバの証人の人々をよく見かけました。彼らは、イエス様が、「真の神エホバによって造られた、最初の被造物であって、神ではない！」と教えますが、聖書のみことばはそうは教えません…。聖書のみことばは、はっきりと、イエス様こそ、罪を赦すことのできるお方であって…。そのことは、つまり、イエス様が真唯一の神であられる！ということをお教えています。

そのように、イエス様は、ご自分こそが真の神であられ…。私たちの罪の問題を解決することのできる、唯一のお方である、ということを証ししてくれています。そのイエス様が、私たちの罪を解決するために…。私たちを救うためにして下さったことは、自らのいのちを犠牲にして、私たちの罪を十字架の上で清算することでした。イエス様の内にあった、1番の動機は、恐らくは、「愛」でありました。それと同じように、私たちも、イエス様に倣って、愛の故に行動し…。愛の故に、喜んで犠牲を払っていくのなら、神は、そういったことを喜んでくださるのではないのでしょうか？…真の神を愛し、同じ兄弟姉妹を愛すること…。それこそが、天の神様が、私たちに對して、1番に願っておられることでもあります。

そして、まだ、イエス様をお信じになっておられない皆さん。天の神様は、あなたが、真の神様を知り、真理を知って、救いを受けてくださることを1番に願っておられます。そのためには、どうぞ、様々な偏見～